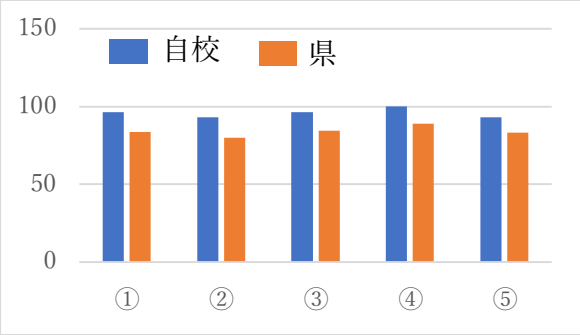
◆生活習慣に関する「質問紙（意識）調査」から

【　数値が特に高かった項目　】

	調　査　の　項　目
①	健康にすごすために授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを普段の生活に役立てている児童の割合。
②	国語の学習で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら情報を整理している児童の割合。
③	学級活動における学級での話し合いを生かして。今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる児童の割合。
④	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる児童の割合。
⑤	将来の夢や目標を持っている児童の割合。

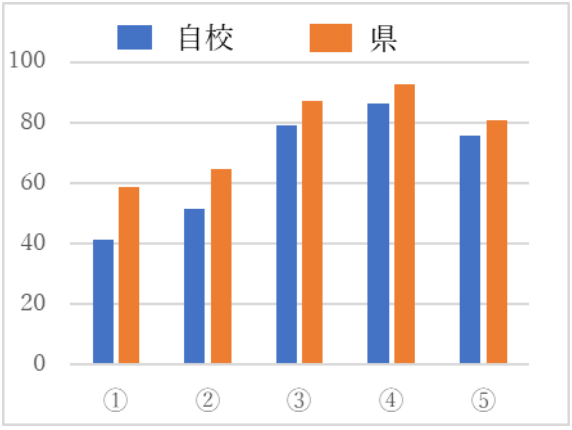


分析　・授業等で学んだことを生活の中で生かそうとしている。
・将来の夢や目標をもっていて前向きな学校生活を送ろうとしている。

取り組み　学校行事の中で児童の出番、役割を作り、承認する機会を作り、主体的な言動を価値付けする。

【　数値が特に低かった項目　】

	調　査　の　項　目
①	算数の勉強は好きと答えた児童の割合。
②	困り事や不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると答えた児童の割合。
③	タブレットを使って友達と協力してしながら学習を進めることができると答えた児童の割合。
④	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるかと答えた児童の割合。
⑤	各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていると答えた児童の割合。



分析　・算数の学習が好きと答えた児童が少ない。
・困ったことを大人に相談したり、友達と協力し学習を進めたりする事に課題がある。

取り組み・児童が問いをもって主体的に学習に取り組む授業づくりに取り組む。
・教育相談活動の充実を図る。

◆令和６年度全国学力・学習状況調査《　６年生　国語科　》

全体の概要
〇教科全体の平均正答率は、県と同じで全国と比べるとやや下回っている。
〇知識・技能は県平均正答率とほぼ同じ。思考・判断・表現も、県平均正答率とほぼ同じ。
〇領域別では、読むことは、県平均正答率を大きく上回っている。書くことは、県平均正答率を大きく、下回り、話すこと・聞くことがやや下回っている。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	・無解答が少ない。 ・言葉の特徴や使い方に関する事項で漢字の書き取りは、ほぼ県の正答率と同じであるが、知識・技能の中では、課題が見られる。	・これまで、問題を解く時に、必ず自分の考えを書くように指導してきたことが、無解答が少ないことにつながっている。 ・全員同じ課題を書くのではなく、個人のつまづきに応じて練習する漢字を変えるという取り組みを学年の実態に応じて取り入れる。
思考・判断・表現	・指示語を把握した上で、問題文をしっかり読めていない。 ・挿絵がなく文章だけの問題に「これが～」という文章が出てきた時に、指示語がどこを指すのかがわからないために、文章の内容をイメージできていない。 ・「引用」という言葉の意味が理解できていないために、相づちをうっている選択肢を引用と考えたともと考えられる。	・文章中に指示語が出てきたら、その都度地道に解説し、指示語がどれを指しているのかを確認させる。 ・引用などの国語の学習の基礎となる言葉が出てきたら、確実に意味を押さえさせる。また、他の学習でもその言葉を使わせる。

◆令和６年度全国学力・学習状況調査　《　６年生　算数科　》

全体の概要
〇教科全体の平均点は、県平均とほぼ同じ。
〇知識・技能は、県平均をやや上回る。思考・判断・表現は県平均とほぼ同じ。
〇領域別にみると、数と計算が県平均をやや下回る。図形、変化と関係は、県平均を大きく上回る。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	・５４０÷０．６の計算が、県の正答率を大きく下回っている。 ・小数点のあるわり算について、なぜそうなるのかを深く理解していない。	・小数のわり算の仕方を理解させる時に、なぜ小数点を動かすのかについて、確実に理解させるための話し合い学習などを行う。
思考・判断・表現	・３５０×２＝７００をもとに３５０×１６の積を求める問題の正答率が県平均を大きく下回っている。 正答は、 ①　１６＝２×８とし、１６は２の８倍となることを求めた上で ３５０×２＝７００をもとにして、 ②　３５０×２＝７００なので ７００×８＝５６００と答えを導くのだが、①の文が書けていない児童が県の正答率を大きく下回っている。	・文章問題の立式をする時に、あえて、教師が問題の中にない数字を出して立式するなどして、答えが合っていても式としては、適切でないことを理解させる。 ・「文を書き、式を書く」のように順序立てて自分の考えをノートに記述していく方法を指導する。